

第2回 土岐市総合計画審議会 議事録

1 開催日時・場所

平成27年3月24日(火) 午後2時から
土岐市文化プラザ 2階 特別会議室

2 次第

開 会

1. 会長あいさつ
2. 第1回審議会の意見について
3. 議事(審議)
 - (1) 第五次土岐市総合計画の総括について
 - (2) 市民意識調査等の結果について
 - (3) 将来人口の推計について
 - (4) 基本構想の策定について
4. その他
5. 閉会

3 資料

- 資料1 第1回土岐市総合計画審議会議事録
資料2 第五次土岐市総合計画の総括
資料3-1 市民意識調査結果報告書
資料3-2 市民意識調査結果報告書(自由意見集)
資料3-3 職員意識調査結果報告書
資料3-4 意識調査結果の分析概要
資料4 将来人口の推計について
資料5 第六次土岐市総合計画・基本構想について
参考資料 まちづくり懇談会について
参考資料 他都市の総合計画事例(刈谷市、海士町)

4 出席者

(審議会委員)

昇 秀樹 若宮 克行 山口 和雄 犬塚 和世 高井 哲雄 水野 健一
白石 文伸 土本 浩義 土本佳代美 加藤 悟 小島 三明

(傍聴者) 2名

※議事録中、発言者のアルファベット表記は前回と関連がありません。

5 議事

1. 会長あいさつ

暖かくなったり、寒くなったり大変ですが、これから計画の5年、10年の間には、リーマンショックみたいな経済危機があったり、大地震があったりするかもしれませんが、どのような変化があっても、住民の命と暮らしを守り、少子高齢化社会でも幸せに暮らせる基盤を保証できる計画になればと思います。では、次第の2について事務局から説明をお願いします。

2. 第1回審議会の意見について

事務局 資料1について説明。

会長 質問があればお願いします。ないようですので、本日の議事について事務局から説明をお願いします。

3. 議事（審議）

(1) 第五次土岐市総合計画の総括について

事務局 資料2について説明。

会長 現行計画の目次に沿って、担当課の評価と市民意識調査の結果の報告でした。質問のある方はいますか。数値目標は市民意識調査の主観的な数値だけを目標指標にするのは学会では妥当ではないと言われていています。主観的な評価とあわせて、例えば、救急患者で助かった割合など、客観的指標とセットで設定しようと言っています。主観的評価はアンケートを実施した時点での社会情勢などで変わります。主観的な数値を使う時には、客観的な評価をセットでやるのが望ましいと言われているので、第六次総合計画では設定の努力をお願いします。

A委員 安全と潤いの環境保全の推進、保全体制の推進で、達成度が「×」であるが、「完了・廃止」となっています。細かい資料をみると、条例の素案を作成したとあり、積み残し課題として、市長から条例の議会への上程の見直しを指示され、計画の見直しもできてないとなっています。この内容は第五次総合計画の見直しの時に入れた項目だと思いますが、なぜ途中で頓挫しているのですか。

事務局 積み残し課題には、「市長より条例の上程の中止を指示され」とありますが、議会に出す前によく検討をしろという指示であったとのこと。

A委員 今後の取組においては、「完了・廃止」になっているので、そのような内容であれば「継続」になるべきではないですか。

B委員 上位法令で、条例で定めようとしていた内容は網羅されていたので、これ以上の条例制定は、売名行為のようなことになるだけであり、条例を制定しないという方向で進んでいます。条例制定はしませんが、法や県条例も強化されているので、あえて市で制定する実益もないと判断しました。

- A委員 知り合いの関係で、シデコブシなどの調査に協力しましたが、これ以上環境が悪くなったら絶滅してしまうという状況でした。シデコブシやナンジャモンジャはこの辺りの固有のものです。昔から生息しているものも含めて、環境全体を保全していければ良いと思います。工業団地も今以上に拡大すると、湿地としての環境が侵されてしまいます。これほどのものが土岐市にあることを私もたまたま知りました。これを大事にしないのはだめだと思います。土岐の湿地は見た目がきれいではありませんが、ひとひねりすると理解できます。シデコブシは日本中にあるものではなく、世界中で、この辺だけにあるものだとわかると認識が変わります。総括で自然環境に触れられている箇所がありません。生態系を維持する、種の保全とかに力を入れるべきで、国にも言っていくべきです。自然環境の連携について、世界にここだけのものを大事にすべきです。工業団地が拡張して自生地がなくなるのを危惧しています。
- B委員 以前から日本有数の群生地があるのはわかっていました。以前も新聞で紹介されたこともあり、盗掘されたこともあります。なかなか根付きにくい植物でもあります。群生地の全部が市有地でもないし、周辺を踏み固めてもだめになってしまいますし、木道を作るという話もありましたが、私有地もあります。保安林のように規制してしまうと、扱いにくくなってしまうので、粛々とやっている状態です。あそこを工業団地にするつもりはありません。シデコブシの群生地であることは承知しています。
- A委員 保護の方法として、以前は盗む人もいたかもしれませんが、一般市民になぜその存在を教えないのか疑問です。場所を教えないとしても、その存在とその生態を教えないのは、疑問です。話すと盗掘されるということもあるでしょう。しかし、パトロールをすれば、防ぐこともできます。また、手入れをすれば、育ちます。
- B委員 花木センターで売っているのは接木のものです。自生は難しいです。
- 会長 積み残し課題の書き方が甘いと思います。国や県で達したので新たに作る必要がない、とかにすれば、「完了」となってもいいが、今のままだとなぜ完了かわかりません。
- A委員 より強調するために条例を作る場合もあるので、学校教育とかでもいいのでPRすればいいと思います。シデコブシを全国に知らせれば、土岐市にどのような自然があるのか、美濃焼きだけでなく、魅力にもつながるので、ぜひとも、何かの方法で表現してほしいです。
- 会長 人口が減少していく時に、土地が自然の土地利用に戻っていきますが、ほっておいたら虫食い状に戻っていきます。市としても、いち早く戻すところとか、公園として整備するなど、優先的に自然に戻す、公園を作るとかのプランニングを政策誘導していくことを計画の総論に書いて欲しいです。パッチワーク的にならずに、きちんとしていくことが大事です。

- A委員 以前は、黙っておくことも、重要な手段でしたが、今は、できるだけ多くの市民に知らせ、ボランティアを募って、みんなで守っていくのが主流です。その貴重性を示して、市民に呼びかければよいと思います。
- 会長 人口減少は環境にやさしいのは間違いないので、総論のところに書いて欲しいです。
- C委員 A3の資料で、担当課の評価と目標数値の評価とありますが、第六次総合計画に向けて、目標の作成の方針はあるのですか。
- 事務局 達成しているかどうかとして数値は必要ですが、設定については難しいところもあり、数値だけで設定できない分野もあると考えています。満足度だけでもだめで、客観的なものも必要ということなので、指標の設定を検討していく予定にしています。
- A委員 今回の計画は、同じようなものを作るのですか。策定の方向性はあるのですか。
- 事務局 本日の最後に、内容について説明をします。
- 会長 では、市民意識調査等の結果について、事務局から説明をお願いします。

(2) 市民意識調査等の結果について

- 事務局 資料3-1、3-2、3-2、3-3、3-4について説明。
- 会長 ありがとうございます。質問はありますか。
- D委員 まち懇は関係あるのですか。
- 事務局 まち懇は開催中です。結果の報告は後日行います。
- D委員 まち懇をみると、泉地区は12名の参加。本当にやるならば町民がこぞって参加するようにならないといけません。4名とかは少ない。参画機会の充実とありますが、住民が出てこない。自治会でまちを何とかしようとしないと、苦情や意見を言うだけです。まちの人が自分のまちをどうにかしようという気持ちが大事です。
- A委員 まちづくりの具体性が見えないからだと思います。
- D委員 自分のまちをどうにかしようと考え、土岐市のことにつながります。
- E委員 土岐市をどうしよう、という困ってしまいます。テーマを決め、これについてどう思うか、という具体性があるといいと思います。また、意見が反映されるかどうかわかりません。まち懇は、抽象的で参加しにくいです。
- D委員 自分のまちを作るので、抽象的ではなく、まず考えたほうがいいです。
- E委員 自分たちの意見が反映されてきた地区は出席率が多いが、低いところは、会議に行ったところでどうなるのだろう、と思ってしまいます。テーマを決めてみんなで検討しよう、ということになると興味が沸くと思います。
- B委員 市全体のことをまちでお知らせすることは必要だが、地区に特化した説明も必要であると思います。それぞれの地区に特化した事業などの内容、説明が必要だと思います。市全体のことだけを言ってもよくないと思います。

- 事務局 テーマを決めることについては検討しました。委員が言われていましたが、第五次総合計画の見直しの時には地域で説明会を開催しました。今回は、土岐市だけでなく、地域のことでいいので、市民自らが「いいところ」、「悪いところ」を考えてもらおうと思って開催しています。テーマについても、今回は広く設定し、土岐市を見直すということにしたので、具体的なテーマにはしていません。参加者からは、今後も継続して欲しい、という意見もあったので、今後は、テーマを決める可能性もありますが、まずは、全地域を1回ずつということで、開催しています。
- A委員 市長と語る会とは別に設定したのですか。
- 事務局 そうです。
- F委員 団結力の強い面もありますが、全部のまちに地域の壁が残っています。各自治会に1000万の予算をつけるとなると、もっとこのようにしたい、という案も出てくるのではないのでしょうか。土岐市の政策は、だらだらとやっている感じがあります。各町で本当の自治が忘れられており、まちの人たちがやっているが、結局は予算がないとなります。特に特異な旧町村が自分たちの棲家と思っているところで、それぞれのまちでそれぞれのユニークな取組ができると思います。思いと計画ができるボランティアも熱意あつてできると思います。そうするとまち懇も参加者が増えると思います。今までのやり方をみると、土岐市全体といっても、意見が言えません。一つの提案ですが、そのような予算を組み立てると、自治会を通じてやってもらえれば、8千万でまちづくりができます。
- 会長 委員が言われた内容は、計画に書くことはできます。8町村が合併して、それぞれのまちづくりをしていくべき、ということは書けると思います。
- B委員 駄知で自治会活動をやっていますが、それが結果的に協働につながります。そうした一所懸命やっているところには援助をする。言葉としては、協働という言葉になると思います。
- F委員 援助をするという意識がだめです。自分たちで、自分たちのまちの方向を決めるのが本来の姿です。予算も必要です。
- B委員 多治見で、各種団体がプレゼンをして事業を採択しています。瑞浪でもやっています。
- F委員 マンパワーは無料なので、市役所がやる仕事の何倍もの効果があります。それが一番大きなものです。いい計画を立てれば自分たちで変えられるという意識になります。そのような制度があれば、まちを変えられるが、ないとだめです。
- 会長 市役所は市民参画の機会をいろいろ設けているにもかかわらず、市民は参加の機会が足りないと言っています。これは大事なことです。参加した人は市役所の味方になります。参画すると事情もわかり、7、8割方は市役所の味方になります。それで満足度を上げていくことを欧州では行っています。人口が減っ

ていく状況では、新しいものは作れないので、量的な満足は得られません。そうすると、市民に決めるプロセスに参加してもらい、そこで満足を得るしかない、ということです。だから市民参加が必要であり、右肩下がりの時代においては、これが必要なのです。量的サービスは縮小する傾向にあるのだから、満足度を上げるには、市民参画のプロセスが大事になります。可能なかぎり、地区別、テーマ別、職業別にやっていくことが大事です。それをやらないとだめな時代になっています。第五次計画の策定で行った時よりも、少しきめ細かくやるといいと思います。右肩下がりの時代に丁寧な市民参画は必須です。どこまでできるかの問題はありますが、これが王道です。右肩上がりの時代は、量的な提供があるので、市民参加がなくても満足度が上がりましたが、これからの時代は違います。必要不可欠なプロセスです。市民参画はこれからは、どんどんきめ細かくなるとだめで、そのように取り組んでいただきたいと思います。駅前とか病院とかの問題は出てきます。20年、30年前と比較して市民と市役所のレベルは今のほうが縮まっています。全部の意見を聞く必要はないと思いますが、総体としての意見は的を射ています。

A委員 市民の意見を聞くのは、まち懇と市民アンケートだけですか。市のホームページから意見を書きましたが、返事がきません。一般市民を対象に意見を聞く場はどうなっているのですか。

事務局 市のホームページで市民の声を出してもらえるようになっています。

A委員 市のホームページで出した意見としては、一つは、駄知線を史跡として整備保存し、そして活用すべき、との提案です。あと、可児に向かう道路がどうなるのか資料が欲しいと質問をしました。

B委員 秘書広報課または、建設部の担当なので、確認をします。

A委員 そのような意見を出すシステムがあり対応をしている、ということを説明したほうがいいと思います。もっと一般市民にわかるようにしてほしいです。

G委員 市長と語る会で、用途地域内では、当然に公園が配置されるべきであり、そういったところには要望があれば検討する、とのことでした。下石には区画整理地内には公園がありますが、まちなかにはありません。もともと公園がないので、その有効性が住民にはわからない。そうすると死ぬまで要望は出てきません。ある程度、市からの提案がないと、それに対して協力はできますが、小学校区ごとに、まちのイメージがあると意見が出しやすいと思います。

会長 市民から意見が出るのは大事ですが、市役所からアイデアを出してもらえるといいという意見でした。

F委員 第五次総合計画の総括で、下がっているものでも「○」となっている施策は、他の人の評価も必要ではないですか。

事務局 事務局の意見は反映していません。

F委員 この評価は違うとの意見を出さないとだめです。

- 会長 最低限、事業系ではない、政策課の評価が必要です。総務・企画サイドの評価があったほうがいいです。
- F委員 担当課は、自分達の先輩がやったことなので、「×」はつけにくい。真剣味が足りない評価になります。他の人が評価することにしなないとおかしいです。
- 会長 行政評価、政策評価をやる時の大事な視点で、自己評価に加えて、他者が評価することがないと、客観的な評価ができません。数値目標をつけるのは、担当者以外でもわかるからです。そのために数値目標を掲げるという意味もあるので、総務・企画サイドの評価をすべきです。これからの計画もそうしたほうがいいと思います。では次第の3、将来人口推計について事務局から説明をお願いします。

(3) 将来人口の推計について

- 事務局 資料4について説明
- 会長 ありがとうございます。
- F委員 出生率が2.0になるかどうかは若い人に聞かないと。
- H委員 理事会でもありましたが、人口減少に対してどれだけ本気かわかりませんが、街コンして、早い時期に結婚させるという企画がありました。結婚しない原因は経済的なものであったりするので、難しいです。将来への不安感を取り除き、満足感が得られればいいと思います。
- I委員 私の世代でも独身者が多数おり、なかなか難しいと思います。
- F委員 空き家対策と一緒に、市が空き家の整備を行い、一定の歳までの夫婦なら安く貸すとか、市営住宅も空きがあるので、安く貸すとか、若い人が住みやすくなる手法を出す必要があります。若い人たちがここに住むことは地域の活性化にもつながるし、いろいろなところでコミュニティが年寄りばかりになっているので、ぜひ、空き家対策をやってほしいです。市営住宅はすぐにでもできるので、早く打ち出さないと、周りの市はやるはずなので、「土岐市は住みやすく、教育がしやすい」とならなければいけません。保育園とか中学生まで無料となれば人は集まると思います。
- A委員 第五次総合計画を作る時に、将来人口は横ばいとの目標にしましたが、あの時の予測も減少でしたが、審議会でも横ばいにした経緯があります。当初の予測よりは上にきているのでその要因をみれば、対策もわかると思います。検証すれば確かな答えが出てくると思います。
- B委員 土岐ヶ丘への転入が大きいと思います。当時は予想に入っていませんでした。10年前は希望的な数値でした
- 会長 過去5、10年の社会動向は丁寧にみたほうがいいと思います。
- A委員 駄知の住宅地もあるし、残っています。まちなかと郊外との人口バランスも悪くなっているので、インフラのコストも高くなるので検討したほうがいいと思

います。

- B委員 下石の団地も安いから家が増えてきました。
- A委員 それで駄知のまちなかが空き家だらけになってきています。
- 会長 総論でも章の最後でもいいので、再掲になる場合もありますが、土岐市としては人口を実現するためにこの施策をやる、というまとめを書いてもいいと思います。
- G委員 人口については、総人口だけでなく、それをどこに配置するかが大事です。土岐ヶ丘、陶史台、織部などで人口が増えています。下石も石拾は増えています。しかし、人口推計では減っているということは、どこが減っているのですか。周りはわりと計画的にできていますが、まちなかをどうするかイメージが人口減少対策につながると思います。
- J委員 子どもを増やそうとした場合、教育費、医療費、この問題が大きいです。若い人に聞けば、もう一人欲しいという人がほとんどですが、我慢をしています。いかにそこに行政が入り込むかだと思います。予算がないなか、どう配分するかだが、何か見出せませんか。
- C委員 地方創生は同じ課で担当するのですか。そうすると、地方創生の推計とどれが近いのですか。
- 事務局 同じ課で担当する。創生の推計はまだ出ていないです。
- 会長 人口問題研究所の前提条件は将来、社会移動が収まっていくという前提ですが、民間の推計はそのままとなっています。真実は、その中間のどこかが現実的であると思います。その2つを睨みながら出すといいと思います。合計特殊出生率の2.07の実現は難しいことです。2040年の婚姻率の予測は0.7。そうなると3人生む必要があります。0.7という婚姻率を上げるのも必要だし、2.07はよほど頑張らないとだめです。1.8は希望出生率です。これが何らかの原因で1.4になっているので、これは頑張れば達成できます。そこから上は、実現性が難しい。国が示しているので、やってもいいが、無理だろうと思っていたほうがいいと思います。
- C委員 国の推計のやり方で出して、対策を打つとか、そうしないとうなるとか、検討材料として出したほうがいいのではないですか。
- 事務局 戦略では、出生率を上げるための対策もだすので、数値は一つに整合をとることにはなります。
- B委員 数値はきちんと出し、その対策を明記すべきです。
- 事務局 子どもの生まれる数が減っているし、高校を卒業すると戻ってこないという問題点もあります。生涯未婚率の解消とかをどうするかは全国一斉にやるのでどうなるか。
- 会長 医療費までは中学生までは無料化しているところもありますが、それは国の問題でもあるので、国で教育費とか医療費とかなんとかするといった国の施策と

して必要なものを盛り込んだほうがいいです。土岐市でやるべきことには限りがあるので、国がやるべきことも書いたほうがいいです。その上で足りない、きめ細やかなことは市町村がやるというようにした方がよい。自治体から言い出すことなら難しいが、今回は国から言い始めたことなので言いやすい状況です。

E委員 土岐ヶ丘にしてもおりべの丘にしても、20年後には高校卒業したら戻ってこないということになるので、土岐市の魅力として、土岐市ならではの魅力を作って、都会では経験できないようなことを市としてアピールする必要があります。

会長 土岐市のなかですべてを賄う必要はないので、ある部分は名古屋、多治見とか瑞浪といったことで広域圏、日帰圏のなかで、都市機能を備えればよい。県境を越えてもいいので、どうやって機能を利用するかを考えると、ちょっとずつ違う個性の都市が連担することで、相対してレベルの高い機能が受けられる都市圏を作ることになります。小中学生の目線と大人の目線では違うので、高校、大学生、大人になると土岐市に縛られなくても、一日の生活圏の中で収まればよいと思います。小中学生に必要なことは、その中で必要だがそれほど高度なものは必要ないはず。では、基本構想について事務局から説明をお願いします。

(4) 基本構想の策定について

事務局 資料5について説明。

会長 ありがとうございます。では、説明について、質問、ご意見はありますか。

J委員 全体としてはいいと思います。まち懇に出席し、下石で7人しか参加者がいなかったが、真剣な意見を出されており、2人の女性が総合病院の今後について不安をもっていました。実際に、病院をどうするかは優先度の高い課題だと思います。市役所自体も今までに十分な議論をされて手を打ってきたと思うが、その結果が現状です。これから先々、新たな手が打てるのかと思うと、難しいと思います。今の状態であるならば、土岐市だけで維持するのは難しいのではないかと思います。多治見のように、外部業者を迎え入れたり、考えたりしていると思いますが、市民病院を優先度を高めてやって欲しいです。優先度をつけて、これは10年間、第一優先でやるということ、絶対達成したい、というような優先度つけてアピールすることをやって欲しいです。

会長 病院はアンケートでも出ていたので大きな課題だと思います。10年の計画なので、本当はどのような形が望ましいのかを計画で書いておき、その中で実現可能なことをやっていく。今日、見せてもらった話でいくと、他市の広域行政経営とかもでてきていいと思います。10年間あれば考えられます。病院担当の部局とも検討しながら、いつになるかわかりませんが、10年のなかでこのような方向にいくべき、ということ、計画の原案では書いて欲しいです。いろ

いろな方向性があるので、そのことについて、それなりの方向性を出すことが大事だと思います。

F委員 すでに10年前の計画にもあったはずですが。市民から見ると何もやっていないと写ります。市長の決断一つ。毎年、5億円の赤字となっています。それを1割でも自治会に出せばすごいことができます。すでに10年経っているのに、第一優先で、計画なかで強い意志を出していかなければいけない。

A委員 第五次総合計画に関わりましたが、結局、第五次総合計画の時も、それ以前で何をやったのか市民にもわからないし、知りません。もう少しメモリアル的なもの、イベントでもいいので、10年間、やり続けるものでもあると良いと思います。病院の再建をテーマにしてもいいし、シデコブシでもいいし、10年間かかって行うメモリアル事業があっても、いいと思います。

B委員 基本構想の下に実施計画とありますが、3年で実施計画を見直すので、最優先でそこで見直していくのは必要と考えます。

事務局 かつては、基本計画がありましたが、個別計画がいろいろあり、病院では、地域医療確保の観点から公立病院のあり方を見直すということになっており、改革プランを検討することになっています。一つの個別計画的なものです。総合計画は、総花的なものになってしまうので、個別計画で詰めていきたいと考えています。

A委員 それだと今までと変わらないので、メモリアル的なものが欲しいということですが。重要度の順に施策を作っていると思いますが、市民全体が思い浮かべられるものしてほしいです。

会長 自治体によって、重点プロジェクトを掲げているところもあります。検討してほしいです。地域医療計画を作るにしても、基本的な考え方は、総合計画で担当と詰めて書いて欲しいです。

J委員 資料3-3の中にいろいろな意見がありますが、市の職員の意見というよりも、市民の意見に近いと思いました。特に総合病院のことについては、職員も危機感を持っています。何とかしなきゃという思いが詰まっていると思います。会長が言われるように、10年あれば医師不足も何とかかなると思います。奨学金も出していると思いますが、これを活用して、10年あれば医者は育つと思うので、それを市民にPRしながら有効に活用して、市民に受け入れてもらえる総合病院にして欲しいです。

F委員 単独の病院では運営がまったくできないのが現状です。

J委員 そうなると、民間の力を入れるのか、指定管理にするのか、もう少し広域的にみて、瑞浪と土岐の中核医療にするとか、そのような全体で考えるとかしたほうがいいと思います。

F委員 人口を増やすために若い人を呼んでも、産科がないとだめです。

A委員 市で検討する部署があると思うが、内部の職員だけで検討するのですか。

- 事務局 今後、外部を交えた検討委員会を作る予定です。地域代表とか医療関係者とかを入れていく予定です。
- E委員 噂で、徳州会が買うのではないかとありますが。
- 事務局 噂の範囲です。
- 会長 職員アンケートの施策の満足度、重要度で重点課題として病院と中心市街地がでてきています。この2つの課題については、第六次総合計画で方向性を出さないと市民に伝えられません。今できるかぎり知恵を出して、この方向にもっていきたいとの内容を入れたほうがいいと思います。重点プロジェクトとしてあげるなら、この2つが有力候補です。
- H委員 協働のまちづくりで、まち懇の参加者が少ないのはよくないが、無理矢理にでも、その人数を達成するまでやるとかしたほうがいいと思います。
- 会長 町内会とか役員の人とか、動員していくイメージですか。
- A委員 無理矢理集めても、回答の重さができません。アンケートのとり方とかも工夫する必要があります。情報収集は緻密にして欲しいです。
- G委員 要望として、まちの将来像のキーワードがありますが、言葉の遊びとしてつなげて、一語で〇〇プランとするのは大切ですが、どこの自治体でも通じるような言葉ではなく、土岐市としてここに連れて行ってやる、というのが欲しいです。それについて、キーワードを当てはめて、それに向かってやっていくという旗印、キーワードがあるといいと思います。
- 会長 時代潮流や文化の再認識とあります。11月3日が文化の日で、それは憲法制定の日です。だから、昭和22年は文化立国を目指していたはずですが、しかし、経済成長に舵をきった。それは当然のことでもありましたが、世界トップクラスの経済水準となり、人口減少になって、できれば、もう一度、文化立国として、文化が重点項目としてやってもらえるといいと思います。文化大国という言葉は馴染まない。文化は質の問題だからです。質を高めるのが大事だからです。結果としてそれは経済にもつながります。最初から経済につながる文化は怪しいので、本音で文化の香るまちを目指して、それがブランドとして魅力につながると思います。今後の地方創生で市町村の中で、文化をテーマとする自治体がでてくることを期待しています。経済はあくまで手段です。最終の目標は経済ではない。そのとき、文化とかは役立ちます。スポーツもそうです。ここでは美濃焼。歩いて回れるコースが土岐市にありますか。理想ではそのようなものができて、外部からきた観光客がお土産を買ったりして、生き残りができるのではないのでしょうか。そのようなことも10年でいけるのではないのでしょうか。日本はこれまで観光立国ができませんでした。それは、周りに豊かな国がなかったからです。ようやく周りも豊かになって、これから観光が大事なものになります。せつかくの陶磁器の産地なので、それを空間的に配置すると、来年は無理だが、10年スパンではできると思います。10年前だと夢

物語でしたが、今は中国の人が爆買などしている状況でもあるので、ありえると思います。土を大事にしたまちは日本の中でもそうはありません。京都でも白い陶磁器もここでできます。日本は可能性がいっぱいあります。皇室御用達は今後ブランドが高まります。ヨーロッパでいうエルメスみたいなものです。観光は日本の基幹産業となります。土岐市はものを作るまちのイメージかもしれませんが、うまくネットワークして、高級品のほうにシフトしていくことが大事です。

F委員 文化も市内でもあっちこちにばらばらにあるので、観光の目的地になりにくい状況です。陶磁器なら集められるので、目的地化すると思います。そうするとアウトレットの客も降りてきます。集中して作ると、目的地になると思います。

A委員 例えば、日本窯場100選を選定するとしたら、土岐市の場合、3か所以上は、入ることになると思います。これを連携していけば、世界中にも、PRできるものと期待しています。陶磁器産業について、10年前の審議会にも意見書を出しました。その内容について、今も特に変わるところはありません。完全に分けることはできませんが、生活必需品としての食器と、暮らしを豊かにする器との、それぞれの対応が必要だと考えます。生活必需品としては、強化食器がありますが、普及は、まだまだです。暮らしを豊かにする器においては、いろいろな試みが必要でしょう。伝統も更新していくべきだと思います。地道な作業が必要ですが、地場産業として、魅力は、充分あると思います。

4. その他

会長 他市の事例ということで資料を配布してもらっています。刈谷市の特徴は、必ずパートナーシップの協働共存の考え方が、市民、互助、公助としてすべての項目に書いてあることです。海士町は、山崎さんというコミュニケーションデザインをやっている方が関わっており、中学生でもわかるものを作っています。24の提案があってそれをまとめたのが計画となっています。ものすごくきめ細かな住民参画をやっています。このような計画があるとうことは皆、知っています。このような計画を作る時代になっているので、新しい計画を作る時の方向性としては検討する価値があります。

5. 閉会

(午後5時00分閉会)

以上